

基礎看護学実習

1. 実習目標

1) 基礎看護学実習Ⅰ

- (1) 人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う。
- (2) フィジカルイグザミネーションを用いて患者の状態をアセスメントしたうえで、日常生活の援助技術を実施できる。

2) 基礎看護学実習Ⅱ

- (1) 看護実践をとおして、看護を展開する基礎的方法を理解できる。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
1 年次	基礎看護学実習Ⅰ	病院実習	1 単位
2 年次	基礎看護学実習Ⅱ	病院実習	1 単位

3. 実習内容

1) 基礎看護学実習Ⅰ

- (1) 対象者に起きている健康問題について生活の視点から考える。
- (2) 生活の視点から対象者の1日の目標を考える。
- (3) 得られた情報から日常生活の援助を考える。
- (4) 日常生活の援助を原理・原則をふまえて実施する。
- (5) 日常生活援助に必要な観察を実施する。
- (6) 日常生活援助後に振り返りを行う。
- (7) 対象者と適切なコミュニケーションをとる。
- (8) 看護者としての基礎的態度を身につける。

2) 基礎看護学実習Ⅱ

- (1) 対象者の身体・心理・社会的状況から、対象者の状態を理解する。
- (2) 対象者の現在の状況を整理・分析し今後の方向性を考える。
- (3) 対象者の状況に応じた看護計画を立案する。
- (4) 立案した計画を対象者の状態を考慮して実施・評価する。
- (5) 看護者としての基礎的態度を身につける。

地域・在宅看護論実習

1. 実習目標

1) 地域・在宅看護論実習Ⅰ

- (1) 居宅で生活している高齢者への介護予防活動の実際を知る。
- (2) 居宅で生活している高齢者が利用する施設での看護活動の実際が理解できる。
- (3) 施設で生活する高齢者への看護活動の実際が理解できる。

2) 地域・在宅看護論実習Ⅱ

- (1) 訪問看護ステーションのある地域の特徴を知る。
- (2) 対象者の訪問看護導入の経過について理解できる。
- (3) 対象者とその家族の療養生活への看護活動が理解できる。
- (4) 社会資源の活用方法と関係職種との連携について理解できる。
- (5) 訪問看護における看護師の役割について理解できる。

2. 実習の構成

時期	区分	実 習 場 所	単 位
3 年 次	地域・在宅看護論実習Ⅰ	介護老人保健施設 ヘルパーステーション 心身障害者福祉センター 地域包括支援センター 医療支援センター	1 単位
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	訪問看護ステーション	1 単位

3. 実習内容

1) 地域・在宅看護論実習Ⅰ

A 介護老人保健施設

(1) 目的

要介護者が居宅における生活を営むことができるよう心身の機能の回復・維持を図るための支援の実際を学ぶ。

(2) 目標

- ①介護老人保健施設の役割と機能が理解できる。
- ②対象者の居住する地域や在宅の状況をふまえた心身の機能回復を図るための支援の実際を理解する。
- ③対象者が地域で生活を営むための環境の調整とそれを支える職種間の連携の実際を理解する。

B ヘルパーステーション

(1) 目的

訪問介護を利用している療養者や家族の生活を知り、援助の実際を学ぶ。

(2) 目標

- ①療養者と家族を生活者としてとらえることができる。
- ②療養者と家族の生活がわかる。
- ③ホームヘルパーの役割が理解できる。
- ④看護職の役割について考えが深められる。

C 広島市心身障害者福祉センター

(1) 目的

心身に障害のある人々への理解を深め、障害のある人々に対する支援のあり方と社会資源の実際を学ぶ。

(2) 目標

- ①心身に障害のある人々の環境について考えることができる。
- ②心身に障害のある人々の社会参加の実際と支援のあり方を理解できる。
- ③心身に障害のある人々に対する看護職の役割を考えることができる。

D 地域包括支援センター

(1) 目的

地域で生活する高齢者やその家族への支援について学ぶ。

(2) 目標

- ①地域包括支援センターの役割と機能について理解できる。
- ②地域包括支援センターにおける支援の実際についてわかる。

E 医療支援センター

(1) 目的

医療支援センターの役割や機能を知り、施設と地域間の医療連携の実際を学ぶ。

(2) 目標

- ①医療支援センターの役割と機能が理解できる。
- ②医療支援センターにおける支援の実際についてわかる。
- ③医療連携における看護師の役割が理解できる。

2) 地域・在宅看護論実習Ⅱ

A 訪問看護ステーション

(1) 目的

訪問看護の実際場面から、対象者とその家族の療養生活の様子を知り、在宅看護における訪問看護師の役割と機能を理解する。

(2) 目標

- ①療養者と家族が暮らしている地域の特徴を知る。
- ②療養者の訪問看護の経過と目的が理解できる。
- ③療養者と家族への看護活動の目的と必要性がわかる。
- ④療養者が活用している社会資源がわかる。
- ⑤多職種連携の必要性と方法について理解できる。
- ⑥体験した事例から訪問看護師の役割について理解できる。
- ⑦看護師としての基本的態度を身につける。

成人・老年看護学実習

1. 実習目標

1) 成人・老年看護学実習Ⅰ

- (1) 対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- (2) 対象者の健康レベルに応じた看護が理解できる。
- (3) 周手術期にある対象者の早期回復を目指した看護が理解できる。
- (4) 機能障害により生活の変容が必要となる対象者とその家族に対する看護を理解できる。
- (5) 疾病・障害を抱え生活する対象者・家族を理解し、心理過程に応じた看護を考えることができる。

2) 成人・老年看護学実習Ⅱ

- (1) 対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- (2) 対象者の健康レベルに応じた看護が理解できる。
- (3) 対象者のエンパワメントを支援する援助を考えることができる。
- (4) 全人的苦痛を緩和するための看護について理解できる。
- (5) 対象者の意思決定とその人らしい生活に向けた援助について理解できる。
- (6) 尊厳ある死および自らの死生観について考えることができる。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
3 年 次	成人・老年看護学実習Ⅰ 急性の状態から回復への看護 (急性期・リハビリテーション期)	病院実習	2 単位
	成人・老年看護学実習Ⅱ ヘルスマネジメント・ターミナル ステージにある対象者の看護 (慢性期・終末期)	病院実習	2 単位

3. 実習内容

1) 成人・老年看護学実習Ⅰ

A 病棟

(1) 目的

周手術期にある対象者及び家族の看護を学ぶ。
回復期からリハビリテーション期にある対象者の特徴を理解し、その変化に応じた看護の実践を学ぶ。

(2) 目標

急性期

- ①対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- ②急性の状態にある対象者・家族の特徴を理解できる。
- ③手術に対する生体反応と回復過程が理解できる。
- ④周手術期にある対象者の早期回復を目指した看護が理解できる。
- ⑤機能障害により生活の変容が必要となる対象者とその家族に対する看護を理解できる。

リハビリテーション期

- ①対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- ②対象者の健康レベルに応じた看護が理解できる。
- ③生活機能障害のある対象者への看護が理解できる。
- ④疾病・障害を抱え生活する対象者・家族を理解し、心理過程に応じた看護を考えることができる。
- ⑤退院後の生活を見据えた多職種連携や社会資源の必要性を考えることができる。

B 手術室

(1) 目的

手術前後の看護師の役割及び周手術期の看護について学ぶ。

(2) 目標

- ①手術を受ける患者や家族の特徴を理解できる。
- ②手術室における看護の実際から看護師の役割が理解できる。
- ③手術室における医療チーム間の連携と看護師の役割が理解できる。

(3) 方法

- ①病棟看護師、手術室看護師の連携場面を見学する。
- ②麻酔導入および覚醒時の看護、術中体位、環境調整等、周手術期の看護の実際を見学する。
- ③手術における医療チームの連携について見学する。
- ④手術室内の環境（清潔区域、不潔区域）の実際を見学する。

2) 成人・老年看護学実習Ⅱ

(1) 目的

対象の発達段階をふまえ、慢性期疾患をもつ対象者とその家族に対しての看護の実践を学ぶ。
最期を迎える対象を全人的に捉え、対象に必要な看護の実践を学ぶ。

(2) 目標

慢性期

- ①対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- ②対象者の健康レベルに応じた看護が理解できる。
- ③対象者の意思決定とアドヒアランスを支援する看護を理解できる。
- ④慢性疾患を有する人の体験することについて考えることができる。
- ⑤退院後の生活を見据えた多職種連携の必要性を理解できる。

終末期

- ①がん治療を受ける対象者の看護が理解できる。
- ②全人的苦痛を緩和するための基本的な看護について理解できる。
- ③最期を迎える対象者および家族の心理を発達課題と合わせて考えることができる。
- ④尊厳ある死および自らの死生観について考えることができる。

小児看護学実習

1. 実習目標

- 1) 子どもと家族の尊厳を考え、それらを尊重する態度について考えることができる。
- 2) 子どもの成長・発達を理解し、特徴を捉えることができる。
- 3) 子どもの療育及び看護の実際について理解できる。
- 4) さまざまな健康レベルや状況に応じた子どもと家族の看護とその方法について理解できる。
- 5) 小児看護の役割について理解できる。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
3 年 次	小児看護学実習	保育園 総合周産期母子医療センター NICU・GCU 小児外来 小児病棟	2 単位

3. 実習内容

A 保育園

1) 目的

乳幼児の成長・発達を理解し子どもへのかかわりについて学ぶ。

2) 目標

- (1) 乳幼児の成長・発達が理解できる。
- (2) 乳幼児の生活を知る。
- (3) 乳幼児個々に合った日常生活の援助について知る。
- (4) 発達に応じた保育のあり方を考えることができる。

B 小児病棟

1) 目的

小児各期の子どもの特徴を理解し、各健康レベルにある子どもと家族に必要な看護を学ぶ。

2) 目標

- (1) 子どもと家族の尊厳を考え、尊重するかかわりができる。
- (2) 子どもの健康障害について理解し必要な看護について考えることができる。
- (3) 子どもの発達段階をふまえた看護を考えることができる。
- (4) 子どもと家族にとって安全・安楽な看護ができる。
- (5) 小児看護における看護師の役割について考えることができる。

C 小児外来

1) 目的

子どもの健康の保持・増進、健全な成長を促進するための看護師の役割を学ぶ。

2) 目標

- (1) 外来で行われている処置、検査、治療を見学し、必要な援助を知ることができる。
- (2) 外来受診している子どもと家族の思いについて考えることができる。
- (3) 外来看護師の役割について考えることができる。

D 総合周産期母子医療センター（NICU・GCU）

1) 目的

医療的処置が必要な新生児とその家族に対する看護を学ぶ。

2) 目標

- (1) 胎外生活への適応を支える看護について理解する。
- (2) 成長発達を支えるディベロップメンタルケアについて知る。
- (3) ファミリーセンタードケアについて考えることができる。

母性看護学実習

1. 実習目標

- 1) 妊娠によって起こる母体の生理的变化と胎児の発育状況を知り、妊娠中の健康管理の実際が理解できる。
- 2) 分娩各期の経過と母体の生理的变化を理解し、分娩経過に応じた看護の実際が理解できる。
- 3) 産褥期の生理的变化を理解し、必要な看護と保健指導の実際が理解できる。
- 4) 新生児の特徴や生理的变化を理解し、必要な看護の実際が理解できる。
- 5) 新生児を迎える家族の状況に合わせた看護の実際が理解できる。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
3 年 次	母性看護学実習	病院実習	2 単位

3. 実習内容

1) 産婦人科外来：妊婦の看護—妊婦健診・母親学級

- (1) 産科・産婦人科外来の特殊性が説明できる。
- (2) 妊娠によって起こる母体の生理的变化と胎児の発育状況が言える。
- (3) 妊婦健診の必要性が理解できる。
- (4) 外来における保健指導の必要性が言える。

2) 分娩室：産婦の看護—分娩各期の看護（正常分娩・家族看護）

- (1) 分娩経過の観察ができる。
- (2) 分娩経過に応じた看護を考えることができる。
- (3) 家族を含めた看護の必要性が理解できる。

3) 褥室：褥婦の看護—産褥期の看護（褥婦・新生児及び家族を含めた看護）（看護過程）

- (1) 産褥期の経過と母体の生理的变化が理解できる。
- (2) 産褥期に必要な基本的看護援助が理解できる。
- (3) 対象とする母子の全体像が理解でき、必要な看護援助を考えることができる。
- (4) 援助計画に沿って実施できる。
- (5) 実施した看護について評価・修正ができる。
- (6) 褥婦の進行性・退行性変化に対する観察と援助ができる。
- (7) 褥婦に必要な指導ができる。

4) 新生児室：新生児の看護

- (1) 新生児の生理的变化が理解できる。
- (2) 新生児に必要な看護が理解できる。

精神看護学実習

1. 実習目標

- 1) 精神に障害のある対象を身体的・心理的・社会的側面から捉え理解する。
- 2) 精神に障害のある対象の健康状態を判断し、対象の力を活かした生活援助をする。
- 3) 精神症状に応じた治療内容と対象への援助を理解する。
- 4) 精神保健医療福祉サービスの目的や職種の連携を学び、看護の役割を理解する。
- 5) 対象を尊重して治療的コミュニケーションを促進することで援助関係が構築できる。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
3 年 次	精神看護学実習	病院実習 精神科デイケア	2 単位

3. 実習内容

A 病棟実習

1) 目的

- (1) 入院治療を受けている患者を理解し、患者の力を活かした生活援助をする。
- (2) 患者の意思を尊重したコミュニケーションにより、援助関係を構築する。
- (3) プロセスレコードを用いて、自己の対人関係の課題を明確にする。

2) 目標

- (1) 患者を身体的・心理的・社会的側面から査定し、日常生活の援助ができる。
 - ①入院患者の安全・保護のために整備された治療環境が理解できる。
 - ②患者に出現している症状と健康な精神活動が把握できる。
 - ③患者がこれまでの生活環境で獲得した生活能力を発達課題に沿って分析できる。
 - ④精神症状に応じた治療目的と内容を理解して、対応ができる。
 - ⑤精神症状や生活環境が患者の日常生活に与える影響が理解できる。
 - ⑥患者に関する情報や看護目標を看護チームで共有できる。
 - ⑦患者の力を活かした生活援助を行い、評価ができる。
- (2) 患者の生活を支える職種の役割が理解できる。
 - ①現在と今後の生活を医療福祉の面から考え、他職種の支援内容が理解できる。
 - ②今後の生活に必要な社会資源を考えることができる。
- (3) 患者の意思を尊重して関わることで、援助関係が構築できる。
 - ①患者と適切な距離をとり、生活行動を共にできる。
 - ②傾聴や共感などのコミュニケーション技法により、患者の発言を促し気持ちが理解できる。
 - ③患者に出現している精神症状・状態像を理解した関わり方ができる。
- (4) プロセスレコードを用いて、自己の関わり方について考えることができる。
 - ①その時の思考や感情に気づき、患者と自己の言動の分析ができる。
 - ②自己の関わりの傾向やコミュニケーション技法の活用を見直し、課題を明確にできる。

B 精神科デイケア

1) 目的

地域治療としてのデイケアの目的と看護を学ぶ。

2) 目標

- (1) デイケア利用者に関わり、プログラム等に取り組むことでデイケアの目的が理解できる。
- (2) デイケアでのスタッフの関わりから看護師の役割が理解できる。
- (3) デイケア利用者の生活に必要な支援を他職種視点で理解できる。

統合看護実習

1. 実習目標

- 1) 複数の患者を受け持ち、優先すべき情報収集や看護判断、看護の提供方法を理解できる。
- 2) 病棟における一勤務帯の業務の流れを理解することにより、看護師の役割と責任を総合的に理解できる。
- 3) 病棟における看護管理の実際を体験し、看護師としての責任と自覚を養う。
- 4) チーム医療、多職種との協働におけるマネジメントの実際を理解できる。

2. 実習構成

時期	区分	実 習 場 所	単 位
3 年 次	統合看護実習	病院実習 客観的臨床能力試験（OSCE）	2単位

3. 実習内容

A 病院全体オリエンテーション

1) 目的

病院・病棟での看護管理を理解し、看護師としての責任と自覚を養う。

2) 目標

- (1) 病院、看護部の理念、病棟目標設定の関連について理解する。
- (2) 病棟（病院）におけるリスクマネジメントについて理解する。
- (3) 看護部組織・病棟職員構成要員とその役割を理解する。

B 病棟実習

1) 目的

- (1) 病棟における一勤務帯の業務の流れを理解することにより、看護師の役割と責任を総合的に理解できる。
- (2) 複数の患者を受け持ち、優先すべき情報収集や看護判断、看護の提供方法を学ぶ。
- (3) チーム医療、多職種との協働におけるマネジメントの実際を学ぶ。

2) 目標

- (1) 病棟の看護管理・運用について理解する。
- (2) 病棟構成員のマネジメント・教育体制を理解する。
- (3) 病棟の物品の管理運用を理解する。
- (4) 患者に関する諸手続きを理解する。
- (5) 患者へのサービスマネジメントを理解する。
- (6) 患者の情報共有と管理について理解する。
- (7) リーダー看護師の役割と業務内容が理解できる。
- (8) メンバー看護師の役割と業務内容が理解できる。
- (9) 夜勤の看護師の役割と業務内容が理解できる。
- (10) クリティカルケアの看護師の役割と特殊性が理解できる。
- (11) 勤務間での継続看護の実際を知る。
- (12) 受け持ち患者（複数）の状態把握と、援助の優先順位が考えられる。
- (13) 患者に必要な援助が提供できる。
- (14) 適切な時期に的確な報告・連絡・相談ができる。
- (15) 関連部門との連絡調整を理解する。
- (16) 他部門との連絡調整を理解する。